

令和元年度教育委員会主要事業に対する意見等

学校教育部

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
基本方針1 「確かな学力」を身に付ける教育を推進します。(15事業)				
1	小学校児童支援推進事業	教職員課	<p>・不登校・いじめ・問題行動・・・学校には様々な課題が山積し、一人一人によりきめ細かな対応が求められています。子どもたちが安心・安全な生き生きとした学校生活を送るため、市独自の非常勤講師派遣は非常に効果があり、継続、さらには拡充していただきたい事業と考えます。</p>	<p>・非常勤講師の派遣により、児童指導担当教員等の授業時数軽減とあるが、小学校では児童指導担当や教育相談コーディネーターは担任をしながらの業務と思われる。不登校児童の割合が増加傾向にある中で、問題行動の解決や不登校対策などについて時間を必要とするが、どの程度の軽減となっているだろうか。担当者の具体的な授業時数の平均はどの程度か。</p>
2	中学校少人数学級実施事業	教職員課	<p>・不登校・いじめ・問題行動・・・学校には様々な課題が山積し、一人一人によりきめ細かな対応が求められています。子どもたちが安心・安全な生き生きとした学校生活を送るため、市独自の非常勤講師派遣は非常に効果があり、継続、さらには拡充していただきたい事業と考えます。</p> <p>・生徒数が規定のクラス数ギリギリの時には、非常勤講師の派遣による少人数学級の実施は、きめ細かい指導の徹底に大いに役立つので継続実施をお願いしたいが、できれば2、3年についても同様の対応をしていただければありがたい。</p>	<p>・アンケートによると指標は目標値を超えているが、3人の派遣で学校の実態、ニーズに当てはまっているかどうかの理解はどのような形で把握しているか。非常勤講師の派遣は大きな予算を伴うので難しいが、派遣された学校でのアンケート結果だけでなく、それ以外の学校の状況についても今後に向けて記載が欲しい。</p>
3	元気アップスクール推進事業交付金(小学校)	教育指導課	<p>・全国的にも珍しい厚木市独自の事業として定着しています。今回の新型コロナ対策のために文科省が「学校の裁量で使える予算」を配当しましたが、その先取りともいえる本事業により、本市小中学校と保護者・地域の協働関係は確実に推進されています。今後も継続をしていきたい事業であり、利用する時の自由度を増してもらえると、さらに特色ある学校づくりが推進できると考えます。</p>	
4	元気アップスクール推進事業交付金(中学校)	教育指導課	<p>・地域との絆を大切にした特色ある学校づくりの推進は、「コミュニティスクール」の推進等における、地域の主体的な活動との協働が求められると考える。ボランティア等の人数も一つの指標にはなると思われるが、地域との絆を大切にした事業が、各校どの程度実施されたか、事業数の平均や、事業例の記載があると具体が見える。</p> <p>・特色ある学校創りには、本当に役に立つ事業であり、予算の減少を最大限に抑えて継続してほしい。ただし、学校側のお金の使い方が様々であり、学年によって偏りが出てしまうことがあるので、気を付ける必要がある。</p>	

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
5	教育活動充実交付金 (小学校)	教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校課題が山積する中、教職員の資質向上は、教育環境日本一を目指す本市においては最も重要なことだと考えます。そのための交付金として非常に有効で今後さらに拡充することが必要と考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ問題で学校の先生が清掃活動などで疲弊しています。例年通りの活用ではなく、臨機応変に活用できる体制を構築すると良いと思います。地域シルバー人材の活用、掃除道具の機械化など率先してこの資金を活用してはどうでしょうか？
6	教育活動充実交付金 (中学校)	教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容が大きく変わったり、課題が多い中、教職員の資質向上のための研究や学校の実情、教職員のニーズに合った主体的な研究も必要である。地域との連携・信頼を基盤とした各学校の教育の質の向上のための事業の推進とあるようにコミュニティスクールの在り方についての研究活動の充実も期待したい。 	
7	小中一貫教育推進事業	教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップを解消し、小学校から中学校への円滑な接続を図ることはとても大切です。これは生活指導のみならず教科指導においても同じことがいえます。小中学校の教育目標を共有し、一貫した教育活動が推進できるように、今後も、本事業を有効に活用して行ってほしいです。また、中学校の英語教員が小学校に派遣されたことは、生活面・教科指導面において特に効果があったと思います。 ・小中合同研修会を中学校区で実施することは、コミュニティスクールやインクルーシブな学校づくりの視点からも非常に大切であると思われる。地域の小中学校が9年間を見通したカリキュラムや地域との絆を大切に授業づくり、学校づくりと一緒に研究することは大切であり、一層の事業の推進を願う。 ・小中一貫教育推進事業については、小中合同研修会がメインとなっている感じがある。どの中学校区でも年間を通しての交流会が実施されていると思うが、機能的に実施できていない中学校区もあるように感じるので、教育委員会としても研修会のみを後押しするのではなく、年間を通した小中一貫教育事業を把握するとともに指導助言する必要性も感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標にある児童の感想は小中学校兼務職員がいる小学校の児童の感想か、そのほかのいくつかの小学校も抽出して、事業全体を検証する調査内容なのか。
8	小学校「あつぎ元気塾」実施事業	教育指導課		<ul style="list-style-type: none"> ・この事業がスタートした時の趣旨とその分析結果を確認していくことが必要と考えます。同じくタブレットの利用も時代の流れに沿ったものなのか、本当に効果があるのかの分析、また、全国的には放課後子ども教室を地域社会が担う方向で動いていると思うが、それに対する根本的な考え方をぜひ聞かせていただきたい。 ・児童にとっては、タブレットを活用しての学習はゲーム感覚もあり、楽しいと想像するが、基礎基本の定着や学習習慣の定着を図るためという目的についての評価は3学年担当教員と非常勤講師との両者によるものか。どのようなソフトかわからないが、授業でのつまづきなどに対応できる支援になっているか、どの程度の成果を求めての取り組みなのか。 ・3年生限定ではなく、もう少し幅広い活用が出来ないものではないでしょうか？子供の個性を探し出す特別な授業など才能を発掘するような教育の場であっても良いのではないのでしょうか？子ども達の夢や志などを見つけることも大切なことだと思います。

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
9	学力ステップアップ 支援員配置事業	教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの学習面・生活面をきめ細かに見とることのできる有効な事業と考えます。継続していただくとともに、各学校で増え始めている学習支援ボランティアとの関連を研究していくことが必要と考えます。 ・児童、生徒にとって、声がかげやすく、習熟に合わせた支援が受けられることは学ぶ意欲につながる。一人ひとりの児童・生徒の状況に応じた的確な指導ができるよう、教員と支援員の一層の連携が求められる。学校現場の忙しさの中でも、両者の意思疎通が十分図られ、課題が見落とされないよう、状況の把握に努める方策を維持しながら、事業の充実・継続を望む。 ・児童、生徒の学力の定着力は大きな幅があり、特に積み重ねが必要な教科では、その差が大きいとともに今後の単元の習得に大きな差が出てしまう。そのために、支援員さんの存在は大変大きく、授業中に個別に指導してもらえることは、教員にとっても大変助かると感じる。 	
10	英語教育推進事業	教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の中で「多くの学年で行うことができた」とかかれています。英語が好きと答えた児童の割合は指標目標を大きく下回っています。この原因を冷静に分析して、今後に生かしていくことが重要と考えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に英語が好きではなさそうです。今までALTとの英語の授業を見せていただきましたが、まさしく授業でした。もっと遊びや生活の中での会話を自由に使うことはできないか、BGMを英語の歌にするなど、ALTの先生とのふれあいを楽しむ方法はないかと思っています。 ・英語教育にALTの活用は不可欠と思うが、指標はいずれも目標値を下回っている。30年度から雇用形態も変わり、教員とALTとの協働による効果的な授業づくりがしやすくなっても英語が好きと答えた児童・生徒の割合は変わらず低い。ALTの効果的な活用の他、通常の英語教育の在り方の研究もALTを交えての研究が必要ではないか。 ・英語教育の前に日本語教育を充実させませんか？日本語がしっかり話せない人が英語を話せても役に立ちません。しっかりとした母語を身に着けることが世界に行っても大事だと思います。また幅広い教養を身に着けることの方が重要だと思います。
11	SEL教育基金事業	教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろ理科実験教室は子どもたちからの評判もとてもよかったです。科学への興味・関心を高められるように今後さらに創意工夫した取り組みがなされることを願っています。 ・情報化社会の中で、子供たちの科学への興味・関心は大きく、それを形にしていくきっかけとなるこの事業は意義があると思われる。厚木市にある多様な機関や人材を活用しての「おもしろ理科教室」等の一層の充実を期待したい。 	
14	小学校保護者負担軽減事業	学務課	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生活していくうえで最も影響のある保護者の経済的な負担を少しでも軽くしていくことはとても重要なことで、効果的な事業ですが、そのことを認識している保護者は決して多くはないようです。事業継続とともに、アピールをさらに強化していくことが必要と考えます。 	
15	中学校保護者負担軽減事業	学務課	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育の中では教材・教員費の公費負担を進めることは大切なことだと思う。今後も保護者の経済的負担を軽減するため継続を希望する。あわせて、保護者への周知と、教職員もこの事業の趣旨を理解し、副教材の選択についてなど、十分な検討を望む。 	

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
基本方針2 豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育を推進します。(6事業)				
2	青少年教育相談事業	青少年教育相談センター	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に山積する問題は多様化し複雑化しています。学校教職員だけではどうにもならない問題も多数存在します。この事業のような様々な職種の方が学校現場に入り、子どもたちのメンタル面や家庭へのアプローチなどを専門的に行ってくれることは大変効果のある事業です。もう学校は先生だけで運営する時代ではありません、ぜひ拡充していただきたいです。 ・元気アップアシスタントが子供達に寄り添って下さり、児童の情緒の安定に児童のよりどころ寄り添ってもらっていてありがたく存じます。現状は週に2、3回の頻度ですが、毎日接することができれば子供達が悩んだ時すぐに対処できることでしょうか。ある学校ではその体制にすべくボランティアのスクールカウンセラーを検討中ですが、有償無償の違いもありなかなか進まないようです。 ・学校だけでは対応困難な事例が多い中、教育ネットワークコーディネーターの果たす役割は大きく、一人増員できたことは、大きい。いじめの対応についても、子どもや家庭の状況等から、カウンセラー、教育ネットワークコーディネーター等を中心とした学校体制で対応できるよう、一層の推進を願う。 	
3	登校支援推進事業	青少年教育相談センター	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が不登校のきっかけとなる原因は様々ありますが、学校の中だけでは見えないことも多々存在します。専門的な目を見たアドバイス、研修はとも効果があるように思えますが、今後は数値が目標値を上回るような取組を推進して欲しいものです。 ・不登校の原因や背景は様々で、対応もそれぞれの状況に応じた支援が必要となる。居心地の良い学級づくり、わかりやすい授業の工夫、専門家や関係機関も交えてのケース会議、事例研究等登校支援にかかわる改善、解決の方策は様々である。増加する不登校児童・生徒の支援に関わる事業の充実を期待する。 ・不登校にも様々あると思います。不登校は学校だけで解決できません。地域や各家庭との連携が不可欠であり、その連携がまだまだうまく行っていないように見えます。学校運営協議会を活用し、不登校を地域の問題として解決する方法の模索や不登校児童の傾向と対策など是非共有をしてもらいたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2-3の実践内容はどちらかというと、子供達への直接支援というより教師（指導者）への支援のように思います。子供支援の充実をお願いします。
4	適応指導教室運営事業	青少年教育相談センター	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回る数値が、本事業の価値を証明してくれています。心の居場所となっている適応指導教室でのさらなる事業推進を期待します。 ・適応指導教室や地域の公民館との連携等での対応により、大きく改善されている。今後も充実した取り組みの推進を願う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実績に対し目標値を低くしている理由を伺いたい。

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
基本方針3 教職員の資質・能力と組織力の向上を通して、信頼される学校づくりを推進します。(3事業)				
1	先生のための研修事業	教育研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の講座は回数の問題ではなく「総論(例えば社会に開かれた教育課程)」「各論(例えば英語)」に分かれますが、現場の先生方は「各論」に目がいてしまいがちです。今回の指導要領改訂は教育基本法という教育の最上位法が改正されてから行う初めての改訂です。その本質的な部分を見失ってしまうと教育活動が空回りしてしまいます。数値の高さは素晴らしいが、「総論」部分の理解がどこまで図られているのかを分析して、新たな計画を立てていくことが重要と考えます。 ・ICTの活用研修をはじめ、教育力の向上のための研修は必要である。内容や方法の充実を図り、推進してほしい。 ・最近の先生方は、本当に研修等に自主的に参加されびっくりしている面もあります。教育研究所で実施している「寺子屋」に参加を希望する先生が、年々増加していると思いますので、よりよい研修会を提供してください。 ・先生の研修ですが、もっと違った角度からの研修などを積極的に取り入れたらどうかと思います。リーダーシップ研修、コミュニケーション能力向上研修、一般会社での研修など学校以外の世界にも有益な研修項目や講師が多数いると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領前文でうたわれている総論ともいえる理念をどのように現場の先生方におろしているのか伺いたい。
2	教育調査研究会運営事業	教育研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のみならず市民が関わって研究を深めている研究部会は、本市の特徴でもあります。地域に開かれた教育課程を実現するためにも、ぜひ今後も継続・拡大していくことを期待します。 ・実用度の数値が90%を超えることから意義ある研究といえる。研究に携わった教職員にとってもチームで課題に取り組む経験は幅広い視野に立つて日頃の指導内容等を見直す良い機会である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校から教職員や市民が参加して、テーマにそった研究を行い、素晴らしい発表を夏休みに文化会館で発表していますが、残念なことに参加者は管理職や同じ教職員のような気がします。冊子として各学校に配布されていますが、内容をしっかりと見てくれる先生方は本当に少ないと思います。せつかくの研究ですので、最低でも市内の教職員が共有できる方法はないでしょうか。
3	教育資料提供事業	教育研究所	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科副読本は地域の素材満載で大人が見ても学ぶことの多い資料集です。ぜひ事業説明にある家庭・地域社会における教育を支援するための資料集として、社会教育の現場に携わる職員が手に取って使えるような体制づくりも検討していただければと思います。(例えば、公民館に図書室に置くなど。) ・社会科副読本等、厚木を知る教材の提供など、日々の教育活動に必要な資料の提供や、研究の成果や課題をまとめた実践集等の提供は継続の必要な事業である。 	
基本方針4 課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図ります。(20事業)				
8	児童・生徒登下校等安全推進事業	学務課	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者から身を守り、自分の危険を周囲に知らせる防犯ブザーは、安心して登下校するためには必要不可欠なものです。継続していく必要度の高い事業と考えます。 ・登下校中の事故を防ぐための学童通学誘導員の配置や防犯ブザーの配布は安心・安全への取組として有効と思われる。8か所以外に学童通学誘導員の配置が必要な個所がないか、毎年検証をお願いしたい。 	

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
9	(新規事業) 小学校屋外AED設置事業	学務課	・AEDは日常的に使われるものではありませんが、設置していることで安心感は生まれます。ここ数年の自然災害の様子を見ていても学校が避難所（生活空間）になるケースも増えてきています。いざというときに使えなくては意味がないため、備品の確認作業は怠らないようにしてください。	
10	(新規事業) 中学校屋外AED設置事業	学務課	・校内のいろんな所に設置されるようになり、児童生徒の身近な存在になりつつあるAEDですが取り扱いの指導はなされているのでしょうか？高学年だともう実践できると思われず。 ・多くの場所にAEDが設置されることは生徒や学校利用者等の安心・安全につながる。	
11	インターナショナル セーフスクール推進 事業	教育指導課	・認証に関わる学校だけでなく、その手法をしっかりと広報し、安心・安全な学校運営の支援につなげて頂きたい。	
12	要保護及び準要保護 児童就学援助事業	学務課	・教育の機会均等を図るため、経済的な理由により就学が困難になっている家庭を可能な限り支援していくことが大切で、本事業はとても効果的な事業だと考えます。	・子どもたちが、安心して教育活動を受けるためにもとても大切な事業だと思います。ただし、事務的手続きは煩雑であるため、教育委員会で保護者が手続するような方法は考えられないでしょうか。
13	要保護及び準要保護 生徒就学援助事業	学務課	・経済的理由で生徒にとって教育の機会が奪われないよう、事業の継続は必要である。可能な限り、支援の基準を下げないようつとめて頂きたい。	
14	小学校特別支援学級 等就学奨励事業	学務課	・教育の機会均等を図るため、教育の水準を維持し、可能な限り保護者の経済的な負担を減らしていくことは、とても重要な支援となり得ます。本事業の継続・拡大を期待しています。	
15	中学校特別支援学級 就学奨励事業	学務課	・家庭における教育環境の維持には経済的支援が不可欠である。	
16	特別支援教育推進 事業	教育指導課	・就学相談件数が年々増える中、保護者に対してとても丁寧な根気強い支援・助言をすることで、保護者や児童・生徒のニーズに合わせた地域の学校への就学率は100%となっています。信頼される学校・教育委員会として絶対に後退してはいけない事業だと考えます。 ・特別な支援を必要とする子どもたちについてのきめ細かな就学相談や就学指導、校内支援体制の充実個々の状況やニーズに沿った適切な教育環境の整備等、充実した支援の継続をお願いしたい。	

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
17	インクルーシブ教育推進事業	教育指導課	<p>・授業のユニバーサルデザイン化等の定着を進めるインクルーシブな学校づくりでは、保護者、地域とともに進めることも重要と考える。コミュニティスクールを進めている厚木市にとってモデル校や推進協力校の取り組みを全校展開に向けて発信するとともに、地域との協働におけるインクルーシブな学校づくりの発信も期待したい。</p>	<p>・ぜひ根本的な考えを伺いたい。インクルーシブの教育、理念は誰に必要なのか？その根本を考えたら、今回のような学校のみを対象にする研究指定は今後考え直す必要があります。本研究は県の人権教育推進事業を利用しての指定となりますが、「家庭・学校・地域が連携して」という一番重要な部分が厚木市の研究趣旨から外れていました。当初から研究を社会教育の場に広げるように要望しましたが、学校教育側からは一度も社会教育行政に声をかけることもなくすべて学校任せとなりました。依知中学校区では積極的に公民館に働きかけ、地域との協働事業にしようとしてきましたが、学校のみ思いは一部にしか伝わらず、社会教育サイドの主体性は発揮されないまま1年が過ぎてしまいました。モデル校における支援体制づくり、環境整備の研究をしていくという事業内容は、全くされなかったという実感を持っています。社会に開かれた教育課程を実現するためには社会との連携及び協働が重要であると学習指導要領でうたわれています。この理念を実現するためには、まずは行政が「連携・協働」のお手本を示してほしい、示せる、示さなければいけない研究内容だと考えます。</p>
18	外国籍児童・生徒等支援事業	教育指導課	<p>・市内の小中学校に在籍する外国人の数、及びその国籍は相当数に上り、また、日本国籍でありながら日本語がおぼつかず、授業についていけない子供も増加しています。学校生活に支障が出ないようにするためには通訳が必要ですが、その人材の確保は厳しくなっています。事業の継続及び拡大をしてほしいですが、人材を探すことも引き続き力を入れていただきたい。</p> <p>・学校によって大きな差があるようですが、年々外国にかかわる生徒の数は増加しているのが現状です。国によって習慣の差があり、それをそのまま日本の学校教育にも要求してくるケースが多い気がします。日本で生活する以上は、ある程度日本の習慣を理解してほしい面があります。また、全く話ができない子どもは、授業は苦痛でしかないと思います。国際級に取り出して、母語で指導してもらえる時間はほんの少くであり、あとは自動翻訳機等を使用して一般教員が何とかコミュニケーションをとっているのが実態です。難しいとは思いますが、各国のコミュニティーは限定されているケースが多いので、少しは日本語を理解できるまで、公民館等を使用して日本語指導をしていただくと助かります。</p> <p>・外国から来た子どもが増えています。今後ますます増えることと思います。それに際し、日本語がしゃべれない就学児童も多いと思います。また南米、アジアなど様々な国々様々な言語の子どもがいる中で、日本語会話などの特別教室などを充実し、支援する必要性も感じます。ただ子ども達はとても柔軟ですので、子ども達同志の会話でどんどん日本語が上達します。外国人に対しての差別などが起こらない環境を作る必要があると思います。</p>	<p>・在日外国人が多くなっている現状で個々の外国籍児童生徒への対応は追いつかないのでは。彼等の保護者も含めて組織的な対応を考えていただきたい。現在 就業者のための日本語指導教室がボランティアによって開催されています。この組織をもっと充実させて子供の日本語教室を作ってはいかがでしょうか。</p> <p>・日本語指導協力者は学習支援以外にも学校生活、家庭生活について支援を担っていただいているケースも多く、人材確保が難しいとのことであるが、生徒の状況によっては地域の教育力の活用も手だての一つにならないか。</p>

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
19	学校支援プロジェクト推進事業	教育指導課	<ul style="list-style-type: none"> ・近年学校で起きる問題行動や保護者対応は複雑で多岐にわたっています。定期的な学校訪問による聞き取り調査や専門的なアドバイス・外部機関への接続等の具体的な支援を受けることで、教育活動に専念できるようになります。これからも、しっかり学校を支援していくことを希望します。 ・ここでの実績値が半分にも満たないということは検討の余地があります。問題行動を起こす子供達は何かを求めています。解決には寄り添いの心と長い時間を要するでしょう。授業という一斉学習をこなすだけで精一杯の先生方に全てを託すのは大変なことです。地域には民生児童委員 主任児童委員等子供の成長を見守ってくれている大人がいます。地域の人の支援があってもいいと思います。 ・問題行動の解決や未然防止は外部の関係機関との連携が不可欠。どのような場合必要とするかなど各学校の状況を把握し、助言や必要な支援に結びつけるこの事業は今後も必要と思われる。 ・定期的に学校の状況を確認していただき、アドバイスをいただけるとともに、問題が拡大したときにケース会議を関係機関とともに開いていただけるので、いざという時には心強い事業だと思います。ただし、その前に学校側が、常に警察、児童相談所、保護センター、青少年教育相談センター等と顔が見られる関係を作っておくことが大切だと感じます。そのためには、児童指導担当、生徒指導担当の果たすべき役割が大切になってくると思います。 	
基本方針6 地域全体で子どもを守り、育てる機運を高め、地域社会の教育力の向上に努めます。(1事業)				
1	青少年非行防止活動事業	青少年教育相談センター	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の非行防止のための街頭指導についての課題として、今回も巡回場所があげられていた。また、「心と街のクリーン作戦」のような学生を実行委員として活動する取組みは大変意義があると思われるがやはり課題があるとのこと。意義ある事業であれば、多くの人がかかわり、予算も大きいので課題を整理し、より充実した事業の推進を期待する。 ・子ども達は親や大人に自分の承認をしてほしくて悪さをします。大人が仕事や自分のことで精いっぱいでは子ども達が寂しい思いをしています。悪いことをしないようではなく、その子たちの心に愛情を注ぎこめるそんな施策が出来ないでしょうか？家庭の味をあげてもらおう。地域ボランティアに参加してもらおう。対等にしゃべれる大人がそばにいる。そんな活動を推進したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なことを伺いたい。 <p>このような大きな、そしてこれから求められる考え方をテーマにした方針に対して、教育委員会の具体的事業が一つしかないことは非常に残念なことである。</p> <p>教職員の働き方改革がうたわれる中で、「パトロールは教員の仕事ではない？」といわれているが、本事業では教職員がパトロールを行っているのでしょうか？</p>

No	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
その他（意見等）	教職員課	<p>・教職員の欠員が出た時に、教職員の補充がなかなかなく、先生方に多大な負担をかけてしまうことが多いので、教職員の確保を充実させてほしい。</p>		
	教育指導課	<p>・コロナ感染拡大のために小中学校は3カ月ほどの休校が続きました。中学校3年生に限定して書きますが、健康診断もなく、部活動もなく、行事もなく、授業は全く行っていません。神奈川県内の市町村でも休校の期間はまちまちです。その中で、高校受験は同じ条件で行われるはずですが、厚木市は県内の中でも一番慎重に対応したので、一番授業数が足りないと聞いています。中学校3年生以外は残りの年でピッチをあげれば追いつくことも可能ですが、中学校3年生はそうはいかないと思います。先にも述べたように授業だけやればよいというものではありません。夏季休業を短縮しても追いつける時間数ではないと思いますので、2学期からは、土曜授業も考えるべきだと思います。</p>		

令和元年度教育委員会主要事業に対する意見等

教育総務部

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
基本方針1 「確かな学力」を身に付ける教育を推進します。(15事業)				
12	小学校ICT化推進事業	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での利用時数が非常に低いというのが気になります。今後一人1台のタブレットが配当された時に利用の仕方は大きく変わってくる可能性もあるので一概には言えませんが、小学校で活用していた子供たちが、中学校について活用されなくなるというのほどに課題があるのかしっかりと分析していく必要があると思います。 ・以前ICT活用の授業を見せていただきました。子供一人一人の想いを簡単に共有することができ楽しい学習でした。これからのスタイルだと確信しました。さらに オンライン学習は不登校で悩んでいる子供達にも学習の道を開くことができることでしょうか。しかしこれを創造するには先生方の活用技術が必要ですね。大変だと思いますが更なる先生方の努力と向上を期待します。 ・GIGAスクール構想の実現に向けてはICT環境の他、指導や校務での利用形態も異なり、活用について、今まで以上に多くの課題が予想される。環境が整っても運用について教員が十分理解ができていないとICT化は進まない。ICT支援員の配置、ICT活用計画などは、活用が十分とは言えない現状を十分踏まえての構想が必要と思われる。 	
13	中学校ICT化推進事業	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会を考えると大変重要な分野だと考えるが、中学校でのタブレット等の有効な使用率は数字より低いと感じている。タブレットからテレビに映像を映すだけの使用が多いと思う。もっと有効な活用するには、ネット環境をどのクラスにも簡単に設置できるハード面と教職員の研修が必要だと感じる。小学校の授業では有効活用されていると聞くので、子どもたちも戸惑いがあると思う。所管課は、ハード面は学校施設課、ソフト面は教育指導課に分かれているが、ICTを充実させていくのであれば、学校施設課の教育情報係にも教員経験者を置く必要があると思う。今回のコロナによって、リモートによる授業の様子がテレビでよく見られたが、公立の小中学校では、実施することはなかなか難しいと思う。 ・ICTの活用方法やICTでは出来ないことも積極的に教えてほしいと思います。一つの情報を得るにも、江戸時代は何百キロも歩いて自分が求める教育を受けに行ったものです。現在はインターネットが普及した関係で情報が手に入り易くなりましたが、その分実体験に基づく、教養が身に付きにくくなっていると思います。知っているつもりが氾濫していることにとても危機感を感じます。 	
基本方針2 豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育を推進します。(6事業)				
1	中学校給食施設整備事業	学校給食課	<ul style="list-style-type: none"> ・県内では中学校給食についていろいろ議論されているところがあるようですが、本市では中学校給食が始まってかなりの年数となります。今後、給食施設は民間運営になるようですが、民間になっても保護者の声は多方面にわたってしっかり吸い上げられるように取り組んでほしいです。現在の保護者は「給食が当たり前」でも喜んでいきます。 ・安心・安全な中学校給食の実施のため、PFI事業者の選定・契約、施設設計業務等、今後も円滑な推進を願います。 ・小学校から中学校に入学してきた生徒は、小学校の給食はおいしかったという言葉をよく耳にする。話を聞いてみると、メニューが豊富だったことが一番の理由のような気がしたので、新しい給食センターに期待するところは大きい。 ・子ども達の学校給食への不満が多く聞かれます。PTA関係で給食センターの試食会に行きますが、とても美味しく良いものを提供してくれています。もっと子ども達にそういった一生懸命に作ってくれている人がいる事や、各校給食とセンター方式の違いによる変化を食育として伝えてほしいと思います。 	

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
基本方針4 課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図ります。(20事業)				
1	(新規事業) 第2次教育振興基本計画策定事業	教育総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・今後12年間を見据えた、教育行政の根幹となる基本計画です。教育の歴史の中でこれまでどのような変化・変容があり、それがどう変わっていかなくてはいけないのか（はやりの言葉で行けばロードマップ）、この時代に求められる本質とは理念とはどのようなものなのかを的確につかみ、多くの声を吸い上げながら策定して欲しいものです。 ・これからの意見交換会やパブリックコメントの実施により、厚木市の教育振興基本計画がより良いものとなるよう願う。 ・現在の「厚木市教育振興基本計画」に引き続き、第2次計画もさらに素晴らしいものを作成してください。 	
2	三田小学校再整備事業	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・安全面を最優先に考慮し、市民（大人も子供も）にとって、使いやすい学校づくりを展開してください。 	
3	三田小学校グラウンド整備事業（継続費）	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・児童等の安全を確保しながら計画的な事業の推進をお願いしたい。 	
4	小学校校舎・体育館改修事業（長寿命化）	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・改修・整備工事は終了してみれば喜ばれるものですが、大変費用のかかる事業です。今後は校舎改築等の大規模工事を実施されていくようになるため、長期にわたっての計画と国庫を利用した工事などを考えながら推進して欲しいものです。 ・学校のトイレ、校舎外壁等の改修工事等、安心・安全な学校生活が過ごせるよう、順次計画的に進めて頂きたい。 	
5	中学校校舎・体育館改修事業（長寿命化）	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に和式のトイレがほとんどない中で、小さい子どもほど和式のトイレの使い方も知らないという話もあります。トイレがあまりにも汚いので、この学校は受験しないという生徒もいるほどです。厚木市は早くからトイレ改修に取り組んでもらい本当にありがたいと感じています。 	
6	小学校校庭整備事業	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な学校生活のための校庭整備を計画的に進めてほしい。 ・どの小中学校の校舎も老朽化してきており、大雨が降れば雨漏りが多々あるようです。コンクリートの劣化は雨漏りを直すことは困難だということです。大和市が中学校の建て替えを始めましたが、経費の関係から途中でストップしてしまいました。厚木市も順番に建て替え等を考えていかなければいけない時期に来ていると思いますので、大変な作業になるとは思いますが、計画的に実施をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドの改修工事はなかなか経費の面で厳しいとの話は聞きましたが、表面に大きな石が浮かびあがってきたり、鉄製の棒が出てきたり、生徒の安全面を考えると、絶対に危険性が高く、改修の必要のある学校より他の学校が先に整備されることになっていました。
7	中学校校庭整備事業	学校施設課	<ul style="list-style-type: none"> ・最近学校で樹木の剪定業者による剪定が行われています。その剪定方法が非常に惨いです。長年かけて育ってきた樹木は子ども達や親にとっても大事な歴史遺産です。それを根元から切り倒したり、葉がなくなるくらい剪定していたりと惨い状況が良く見られます。もっと景観と歴史を意識した整備をお願いしたいです。 	

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
	その他（意見等）	教育総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では 安全を見守る人や育成会、ボランティアの方等たくさんの方々が支援していられます。また PTA、学校運営協議会等組織として共に考え協力できる体制を持っています。ところがそれぞれの支援の仕組みが機能しているでしょうか。今回のコロナ禍の非常事態の中で学校はとても大変な状況に陥りました。しかし学校運営協議会のメンバーは何も手を貸す場面がなく外部でおろおろと過ごすばかりでした。去年度の学校運営協議会の活動は運動会の準備や机の高さの調整等でした。PTA活動との違いがもっと明確になればいいと思っています。学校は会合を持つとなれば 資料等の準備をしなければなりません。何ページもある資料を目にして学校の仕事を増やしているのではないかと申し訳なくなります。 ・「学校、地域、家庭の連携」という言葉から「開かれた学校」という言葉が使われるようになり、学校開放の日などが設定されるようになり、現在では、「学校運営協議会（コミュニティスクール）といった具体的なものに変化してきたと感じています。新指導要領では、「生きる力 学び、その先へ」として、子供の未来を支える皆さんと共有したいとしています。教員だけではなく、保護者や地域の方々も教育の和に加わってほしいという意味であり、いわゆるコミュニティスクールそのものだといえます。厚木市では現在では全小中学校が学校運営協議会を設置して活動しています。この方向性は正しいものであり、今後も継続して行ってほしいのですが、小学校と中学校の文化の違いから、小学校は機能している学校が多く、中学校ではまだまだ模索している現状だと思えます。コミュニティスクールを順調に機能させるには、まだまだ課題が多く、時間がかかると感じています。 ・「児童クラブ」について、地域の中の学校と同じように学校の中の児童クラブです。もう少し学校、そして教育委員会と密接な関係が欲しいと感じています。できれば、教育委員会の中にあってもおかしくないと思えます。 ・「こども110番の家」のプレートを付けているが、子供達が地域の人と触れ合う入り口になりそうに思えます。生かす方法はないでしょうか？ 	

令和元年度教育委員会主要事業に対する意見等

社会教育部

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
基本方針2 豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育を推進します。(6事業)				
5	ブックスタート事業	中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策の影響下で実施事業数が減っているにも関わらず、昨年度の参加率の実績を上回っているのは、開催するための努力と参加する側のニーズの拡大が大きい。今後も持続すべき事業である。 ・乳幼児期の本との出会いはさまざまな世界との出会い。0歳児の保護者対象から1歳児まで広げたことは、忙しい子育て世代にとって機会が広がり良かった。この事業は子育て支援、家庭教育支援にもつながるので、他の事業との連携やコラボで充実してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児のための行事は公民館での子育てサロン等もありますがブックスタート事業も中央図書館だけでなく公民館単位で集客できればいいですね。中央図書館だけですと参加出来る人が限られてくると思います。
6	子ども読書活動推進事業	中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの読書意欲を高めるための工夫がいろいろとなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回あたりの平均参加者数かこれまでに何回事業を行っているのか伺いたい。ウイルス対策で17回実施できなかったと書いてあるが、これをこなせば目標値を大幅に上回ると推測できるのであれば、事業内容そのものは様々な形態があり工夫されているため、継続・拡大をはかることが必要と考える。
基本方針4 課題やニーズに対応した教育環境の整備・充実を図ります。(20事業)				
20	厚木北公民館整備事業	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・土地所有者と引き続き丁寧に対応をしながら、建設するための認可が取得できるように、事業を継続してほしい。 ・社会教育の拠点である公民館建設に向けて、引き続き計画的、安全に進めていただきたい。 	
基本方針5 教育の原点である家庭教育を支援します。(5事業)				
1	家庭教育学級交付金	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力を向上させるために、様々な支援策を展開することは重要である。その中で、本事業は保護者が主体となって計画する事業であり、効果は大きいと考える。ぜひ、今後も縮小することなく継続していただきたい。 ・アンケート結果からは有効度が98%と高く、PTA活動の活性化にもつながっていると思われる。家庭教育支援、子育て支援に役立つ学級の開設について今後も継続をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「明るい家庭教育学級」から「家庭教育学級」という呼び方に変わって何年経つでしょうか？様々な講座など意味があるものだと思いますが、共働き世帯が多い現在では、PTAの方々が入集めに本当に苦労しています。 ・コロナの中でPTAも動きが取れず、困っています。この予算を是非学校のコロナ対策に使えないものでしょうか？PTA全体で学校の清掃を手伝う、清掃をスムーズにできるための整備などに結び付くと良いかなと思いました。
2	家庭教育情報提供事業	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力を高めるための事業を計画するにあたって必要なことはニーズ把握である。今年度は、目標数値には達しなかったものの、今後も参加する人たちのニーズを把握した事業が展開できるように事業を推進してほしい。 ・今後も講演会の内容をPTA等と調整し、ニーズに合った内容となるよう進めてほしい。 	

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
3	「早寝早起き朝ごはん」啓発推進事業	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業の認知度はかなり高まっているという実感がある。生活リズムをしっかりとすることは、家庭教育の原点であり、子供が生活していくうえで重要なものである。さらに、定着できるように取り組みを強化してほしい。 ・基本的な生活習慣を促す地道な啓発活動の取組は継続が大切と思う。 	
4	地域ぐるみ家庭教育支援事業	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの実践を発表しあうということは、「発表する側にとっての自信につながる」「今後の事業を展開する側の参考になる」という点で、非常に有効となる。今後も継続し、「地域で子どもを育てる」という視点をより多くの市民が持つように推進してほしい。 	
5	地域ぐるみ家庭教育支援事業交付金	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館を拠点として推進されている地域ぐるみ家庭教育支援事業はいろいろな団体による協働事業が多く地域づくりであり活動者の生きがいにもなっていると思われる。フォーラムは各地区の有効な取り組みの情報提供や共有化を図る事ができたと思われる。また、市内全域での実施と交付金により、地域ぐるみ家庭教育支援の取組の一層の周知、啓発が図られた。 	
基本方針7 スポーツや文化活動の振興を図り、活力ある地域づくりを推進します。(14事業)				
1	市民スポーツ活動推進事業	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツのための場の整備やニーズに合わせた内容設定の必要性が求められる中、本事業は市民が多種多様なスポーツに触れ合う絶好の機会となっています。さらにPR活動に努力され、参加者数が増えるように取り組んでほしいです。 ・ニュースポーツの紹介やスポーツに触れる機会の提供は今後一層必要になると思います。地域での取組につながるようなイベントにして欲しい。 	
2	スポーツ推進事業補助金	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツのための場の整備やニーズに合わせた内容設定の必要性が求められる中、本事業は市民が多種多様なスポーツに触れ合う絶好の機会となっています。さらにPR活動に努力され、参加者数が増えるように取り組んでほしいです。 ・スポーツ協会との連携を図りながら、補助金が有効に活用されるよう推進していただきたい。 	
3	あつぎスポーツアカデミー推進事業補助金	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のスポーツ活動を推進していくために厚木市体育協会と連携していくことは、必要不可欠なことです。今後もしっかり市民やトップアスリートのニーズ把握や指導者養成ができるように、支援・助言を継続していただきたいと思います。 ・市民スポーツ活動の推進のため、スポーツ協会の実施する事業の一層の充実を進めてほしい。 	

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
4	市民体力向上推進事業	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツをやってみよう、運動をやりたいという気持ちを持つことはスポーツ人口のすそ野を広げるうえで重要で、オリンピックを講師として招いての講演会や日体大の連携によるスポーツ教室は効果があると考えます。ただ、日体大の方の講座の参加人数が低いことが気になります。内容に問題があるのかPR不足なのか、しっかりと分析し、次年度に活かしていくことが大切です。 ・幅広い世代の体力向上や健康増進を目的としたこの事業は地域活動のニーズ応えることができる。この事業のPRにつとめ、活用を広めてほしい。 	
5	スポーツ推進委員養成事業	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ人口のすそ野を広げるためには、身近なところで事業実施することも大切です。今後も推進委員の技量がさらに高まるような事業展開を期待します。 ・市民が地域でスポーツを楽しむために、スポーツ推進委員の役割は大きいと思う。地域での普及活動、推進活動に貢献してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進委員は委嘱しているのか、講座内容はどのようなものか伺いたい。
6	競技団体選手強化事業交付金	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会などへの出場は素晴らしいことです。経費の負担も大きいと思われるので、応援の意味でも予算を確保し、負担軽減の支援を続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、お金を出してHPで紹介する以外に行っていることはあるのか。
7	全国大会等出場奨励事業	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・現在求められているニーズを把握するばかりではなく、将来設計を考えた推進計画になるように、情報収集を図りながら改定作業を進めていってください。 ・十分な調査や分析をもとに、スポーツ推進計画の改定作業を進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算確保が課題なのに、さらに周知を図って申請者を増やすのか。申請者が増えているということは、効果が表れていることであり、単純に考えると予算が増えないのはなぜ？と思うのではないか。予算を付けない行政に問題があるのか、予算を付けられない理由がこの事業に問題があるのかよくわかりません。
8	(新規事業) スポーツ推進計画改定事業	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・現在求められているニーズを把握するばかりではなく、将来設計を考えた推進計画になるように、情報収集を図りながら改定作業を進めていってください。 ・十分な調査や分析をもとに、スポーツ推進計画の改定作業を進めていただきたい。 	
9	体育施設整備事業	スポーツ推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な施設利用ができるよう、今後も必要な整備の予算確保をすすめて欲しい。 	
10	公民館活動事業	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの活性化を図ったり、充実を図ったりするためには公民館活動は非常に重要な位置をしめています。自己評価の中に「内容の見直し」という言葉が書かれていましたが、講座の4本柱の見直しや、法改正や教育再生実行会議で提言された「地域と学校の協働活動」を積極的に取り入れ、新たな時代に乗遅れないような生涯学習のまちづくりを推進してほしいと思います。 ・学級・講座の満足度が目標値に達していないが、前年度よりあがった。社会教育や地域活動の拠点である公民館は講座等の開催の他に大きな役割を担っている。地域や学校との協働による地域づくりの要でもあるので、公民館活動の一層の発展を願う。 	

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
11	市史編さん事業	文化財保護課	<ul style="list-style-type: none"> ・市史というのは、どちらかというと、一般的にはなじみにくいものではありませんが、歴史や足跡を後世に残すということでは欠かすことのできない、活動を止めることのできない、非常に重要な資料となります。そのためには、講演会活動やたよりの発行など、これまで以上に力を入れて取り組んでほしいと考えています。 ・編纂は大変な作業と思われるが、その内容の紹介や広報の機会を今後も継続し、編纂の意義を深めてほしい。 	
12	郷土芸能事業	文化財保護課	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や公民館への巡回公演は、郷土芸能を普及・継承していくためには、とても有効な手段と考えます。今後も積極的なPR活動を展開して行ってください。 ・郷土芸能の継承は地域の歴史であり、絆づくりでもあります。学校や公民館だけでなく、あつぎ郷土博物館で公演するなど、いろいろな場、機会を活用して普及・継承の事業を推進している。今後も多くの市民が触れ合うことができるよう、進めてほしい。 	
13	郷土博物館活動推進事業	文化財保護課	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のみならず一般市民の特に市外からの来館者数が多く、開催講座の評判もいいようです。厚木市の誇れる博物館として、さらに多くの方々が来館して下さるように、事業を拡大して行ってほしいものです。 ・特別展や企画展等の実施により、目標値を上回る来館者数であった。今後の企画や広報活動が期待される。 	
14	「(仮称) 渡辺華山展」プロジェクト事業	文化財保護課	<ul style="list-style-type: none"> ・「渡辺華山って誰?」「渡辺華山と厚木はどのような関係があるの?」と素朴な疑問がわかるようなPR活動、疑問がわいてきたときに、「博物館へ行けばその疑問が解消できる」「来て良かった」というような展開ができるような、プロジェクトになるように推進して行って下さい。 ・渡辺華山展に向けてのプロジェクト事業が計画的に進められているとのこと。事前の関連事業や広報活動も滞りなく進められるよう願います。 	

No.	事業名	担当課等	各委員からの意見	所管課等に説明を求めるもの
基本方針8 人間尊重の精神を基盤とした人権教育の充実を図ります。(1事業)				
1	人権教育・啓発推進事業	社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識を高め、人権感覚を磨いていくことは、生きていくうえで何よりも大切なことです。アンケート結果は目標値を若干下回っていますが、数値としてはかなり高水準なものになっていると思います。今後も積極的なPR活動を行い、市民の人権意識を高揚させていってほしいと思います。学校教育で研究をしている「インクルーシブ教育」も協働活動で取り組んでいくと、効果はさらに高まると思います。 ・人権意識を高める教育や啓発活動は大切な事業である。社会のニーズに応えた講座のテーマや方法など工夫して市民の人権意識を一層高めてほしい。全国コンクールで入選した市の広報も人権意識を高めるための特集記事であった。いろいろな部署と連携してテーマ選択や方法を検討し、一層の充実を願う。 	
その他(意見等)		社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の中での活動もシニア向けが多いようですが、もっと子供に提供できる活動を考えなければなりません。今回のコロナ禍で学校の必要性が再認識されています。学習はオンラインで何とかかなりそう。しかし集団生活をし社会性を育てる面では代えがたいものだとことをあらためて感じています。そして、今この貴重な教育は学校だけに集約されています。もっといろんな場で活動できるような環境づくりを望みます。子供達にいろんな経験をさせることがいじめを生まないことにもなるのではないのでしょうか。 	